

今の時代にフィットしたライトな大判プリンタの使い方

デザイン事務所やクリエイティブワークの現場に大判インクジェットプリンタは必要か？ と問われると、「必要な場面もあるが使用回数は少ないから外注でも……」と尻込みしてしまう回答が多いのではないだろうか。今回お話を伺ったSLOW.incも同様に、これまで大判印刷での納品が求められたときには外注で対応してきた。しかし、テスト的に導入したHP DesignJet Studioを使ってみると、その印象は前向きなものに変わったという。「ちょっとこれ、ウチに1台あってもいいかもしれない」——コワーキングスペース「ロバート下北沢」も運営するSLOW inc.が考えるHP DesignJet Studioのメリットとは何か、実際に使ってみた印象を伺った。



SLOW inc. 金岡直樹氏

カッコ良くて静か、大判サイズをすぐに印刷できる便利さが魅力的

SLOW inc.のデザイン分野はエディトリアルデザインが中心だが、一方で宣伝用ポスターや店舗グラフィックなど大判デザインの需要も少なくない。

普段手に持って見るような雑誌や書籍と、少し距離が離れた場所から見る大判サイズのデザインは見せ方が異なる。たとえば、新刊本を宣伝するポスターを作る場合、メインビジュアルはカバーデザインを採り入れることが多い。このとき、カバーデザインをそのまま拡大するだけでポスターが成立するかどうかという、「それはちょっと難しい」と同社ディレクターの金岡直樹氏は語る。

「ポスターやサインディスプレイは“偶然性の高い出会い”だと考えています。大判のデザインでは、その場を通り過ぎる瞬間に視線を引き留める力が必要です。デザインの段階では、実サイズを目の前にしてみないと感覚がつかめません。これまで大判プリントは外注していましたが、校正段階ではコストが掛けられないので、分割印刷して切り貼ったり、手間の掛かる作業をしながら実サイズのものを用意してシミュレーションしていました。HP DesignJet Studioがあると、確認したいときにすぐ出して見ることができる。印刷スピードも速いですし、発色もなかなか良い。デザイン事務所に大判が印刷できるプリンタがあると、使える場面は多いのではないかと思います」

しかし、これまでの大判プリンタはいかにもメカらしい外観で、それほど広くないデザイン事務所に設置するには仰々しい。また、身の回りの持ち物やインテリアにもこだわりを持っているクリエイターも多いため、積極的に導入するモチベーションが上がらないという声もある。金岡氏も同様に、「大判プリンタは筐体カラーも黒がベースで社内を設置するには大げさすぎ。また、稼働時や待機時の

音も気になる」という印象を持っていた。

「でも、HP DesignJet Studioにはちょっと驚きました。筐体の上面は木目模様が塗装されていて、触ると凸凹とした質感があります。スタンド類も角張っておらずアールを強調した白いパイプ、まるで北欧デザインです。心配していた稼働音も気にならないし、待機時も電源が入っていることを忘れるくらい静か。コンパクトでビジュアルが良い。今までにない大判プリンタです」

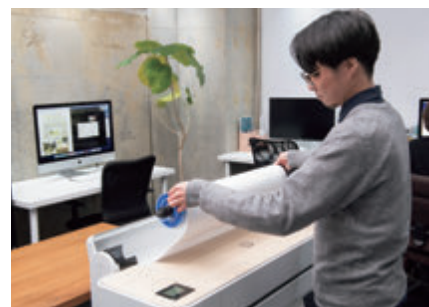
もちろん、肝心の印刷品質へのチェックも怠らない。マット紙、光沢紙への印刷を試しているが、どちらもそれぞれに良さがあり、「写真をよりリッチに見せるなら光沢紙、色ベタをハッキリと見せる、墨文字を強調したいときはマット紙」という使い分けの方法が見えてきたようだ。そして、CMYが染料インク（Kのみ顔料インク）という点も、「今考えているのは短期で使い回すポスターがメインなので、問題にはならないです」と答えてくれた。



SLOW inc.にテスト導入されたHP DesignJet Studio。まず目を惹くのが外観。「大判プリンタは黒くて大きい」という固定概念を覆す白くてスタイリッシュなデザインだ



到着してすぐに印刷してみた、というポスター。ブラックにシアンを加えたリッチブラックの色合いも良く、被写体の描写も滑らかで発色性も高い。これを見て、すぐに「このまま納品できる」と感じたそうだ



すべてフロント操作できるため、設置場所が壁際でも問題ない。しかもメディアはカセットを入れ替えるような簡単さ。大判プリンタと聞いて尻込みしていたスタッフも一度で手順を覚えてしまったそうだ

マット紙へのテスト印刷



墨のハッキリとした濃さがお気に入り、と金岡氏。また、人目を引きたい「赤×黄」のグラフィックも高い発色性を表現しており、文字やベクターデータの印刷にはマット紙との相性が気に入ったそう

光沢紙へのテスト印刷



リッチな写真を再現できる光沢紙は、ラスターデータの印刷に最適。「本来はPDFでの印刷がベストですが、アプリケーションからの印刷でもクオリティに問題ない」とのこと、専門知識も不要

下北沢という場所だから 大判プリントが楽しめる

SLOW inc. はデザイン事務所とは別に、コワーキングスペース「ロバート下北沢」も運営している。事務所との距離は徒歩圏内ということで、金岡氏は、「もし本格的に導入するなら、ロバートに共用設備として設置するのも良いかもしれない」と語る。

「利用者はクリエイティブ業に関連する方が多いので、大判プリンタが1台あると印刷メニューが充実します。印刷方法も簡単だし、ちょっとしたマニュアルをプリンタの脇に置いておけば、こちらのサポートは必要ないでしょう。また、この辺り(下北沢)は飲食店が多いのですが、このご時世で営業時間の短縮やメニュー変更、テイクアウトメニューの開始など、営業状態がめまぐるしく変わっています。街を歩いていると手描きの掲示物が多く目に入ってくるんです。ロバートでポスター用のテンプレートを用意すれば、デザイン性の高いPOPやポスターをすぐに印刷できます。短期的にポスターを切り換えていくことも、訴求効果を高めると思います」

コワーキングスペースは24時間利用できるため、管理者にとって面倒な手間が増えることにならないか、と聞くと「リモートアプリがあるので問題ない」とのこと。HP DesignJet Studioにはスマートフォン用のAPP「HP Smartアプリ」が用意されており、ジョブの印刷状況やインク残量の確認はもちろん、プリントヘッドのクリーニングなどもリモート操作できる。そのため、24時間開いているロバートでも管理者が常駐しておく必要はないそうだ。

「ワンコインでA1～A0サイズのポスター印刷ができます、ってどうですか? この街だから、きっと魅力的な活用事例が生まれると思います」

感度の高いクリエイターが集まるコワーキングスペースに置いても違和感のない筐体デザインのHP DesignJet Studioだからこそ、こんなアイデアも生まれてくる。大判プリントをもっと身近に楽しむ仕掛けが、さらに生み出されるに違いない。

HP Smart アプリ

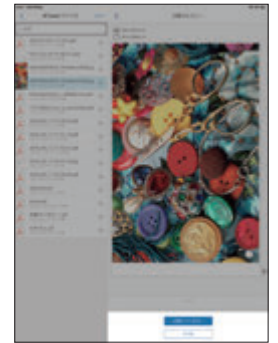
HP DesignJet StudioにはWi-Fiが内蔵されており、リモートで稼働状況を監視できる。常に管理者が常駐できない場所でも、トラブルが起きたら即対応できるので、コワーキングスペースのような場所にピッタリ



インク残量表示
現在のインク残量や、いつ頃インクが切れるかの見込みまで確認できるため、インクが切れる前に準備できる



メンテナンス実行
インクジェット方式プリンタのメンテナンスに欠かせないプリントヘッドのクリーニングをリモートで実行。利用者の負担も軽減される



印刷実行
もし印刷データがPCに保存されていなくてもDropboxやEvernoteなど各種クラウドサービスやSNSと連携して印刷できる



ロバート下北沢
東京都世田谷区北沢2-30-14
重宗ビル3F
www.robert.jp



レンタルスペースやワークデスク、ラウンジ、ソファ席など多彩なレイアウトで自由な働き方ができるコワーキングスペース。24時間使える「ベーシック」、「スタンダード」や2時間制の「ドロップイン」などさまざまな利用方法がある。もしこの場所にHP DesignJet Studioがあったら……と想像すると、いろいろな活用方法が期待できそうです